

A

高橋 香樹 先生 書

細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲 (王安石)

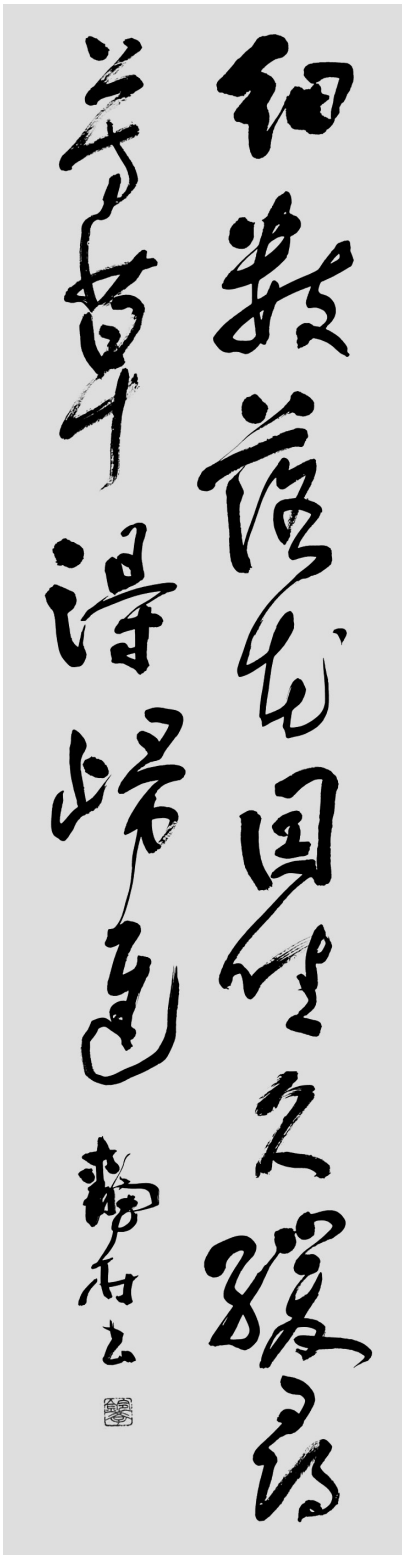
細やかに落花を数えて坐に因ること久しく、緩やかに芳草を尋ねて帰を得ること遅し。



B

鈴木 静村 書

今回は行草単体にて書きました。「花」は「華」を用い縦長に、「尋・歸」も縦長に書し、文字が横並びにならないように配しました。また、偏と旁からなる文字は、どちらかを大きくしています。「歸遲」筆脈不明なところは字書にあたって書いて下さい。



書き了え眺めるに、いささか平凡すぎ。筆力も弱い。もっと馬力を前面に仕上げしてほしい。特に連綿線に弛み、「落花」「因坐」。左行「帰」の終画はこの字の主画、これでは失敗。「因」の「亠」は篆書から。「尋」の草書体、崩しボビュラー覚えておかれたし。訳：長く座って花の落ちるのを細やかに数えている。のんびりと芳しい草を訪ねて帰るのが遅くなる。

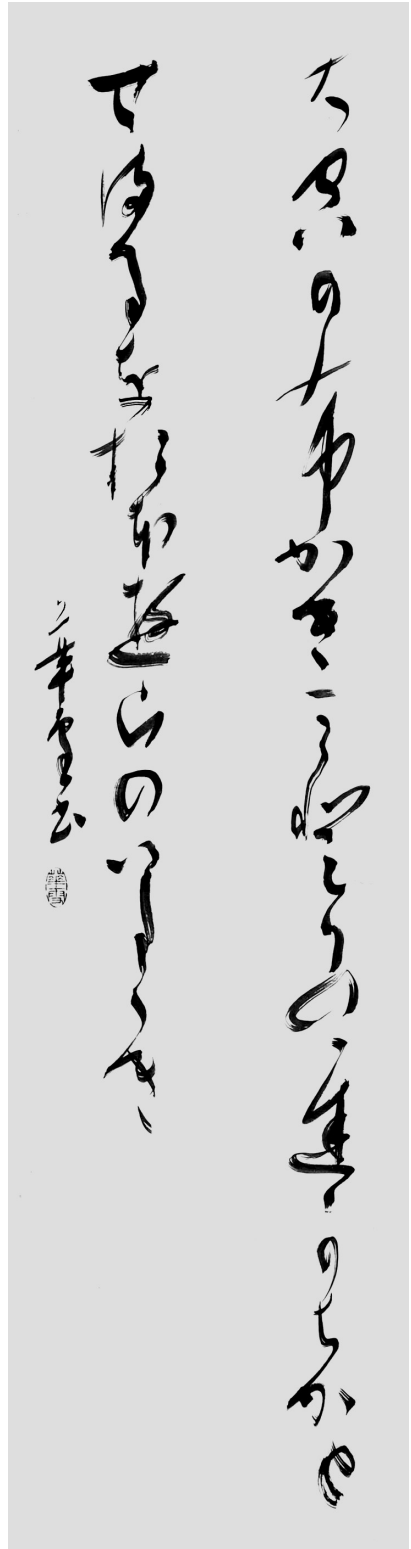
予告 (七月二十二日締切) 小留詩客三杯酒 試看山園幾處花 (楊誠齋)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

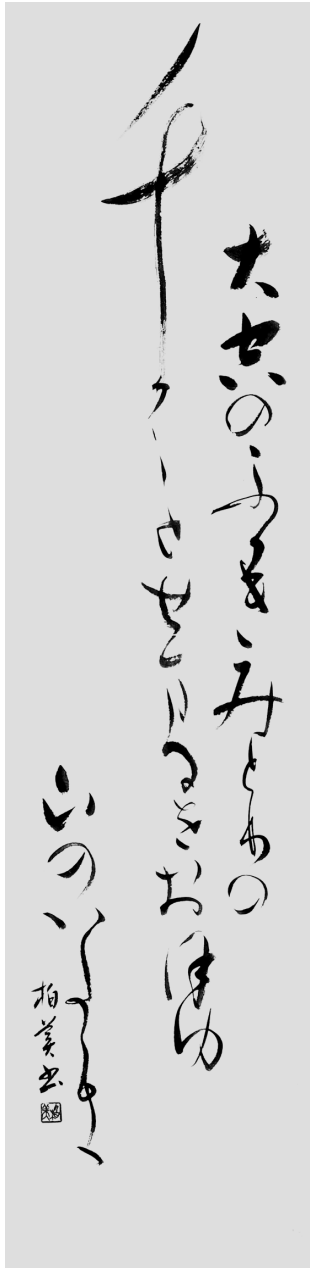
大空のふかき緑のちかちかと迫るをおぼゆ山のいただき(尾上柴舟)  
大空の布かき三登りの遅可ちかとせ満るを於本遊山のい多、き



B

石島柏美先生書

大空のふかきみと利の千可、とせ万るをお保ゆ山のい多、支



学び方

大自然の中の緑深い山の雄姿を右二行に寄せてまとめ、三行目は上部を広くあけて歌意のスケールの大きさを表現しました。  
「大空」は放ち書きですが意連を心がけて「ふかきみと利の」に続けます。  
二行目の「千可、と」の「千」は渴筆で幅を広げて連筆し、長めの縦画は所々で筆圧を加えて変化をつけます。「せ万るをお保ゆ」にかけては一行目にゆるやかに寄せつつ書きます。  
三行目は上部の余白を十分に生かして下部に「山のい多、支」とこれも二行目の線の流れに添って少し右に流して書き取めます。

尾上柴舟は明治九年岡山県津山町に生まれた。歌人、国文学者であり書家でもある。歌風は温雅で自然観照的である。歌集に「銀鈴」等があり、門下に若山牧水、前田夕暮等がいる。著書に「平安朝草仮名の研究」がある。又「粘葉本和漢朗詠集」の研究を中心に古筆を学び、端正高雅な書風で知られている。

予告 (七月二十二日締切)

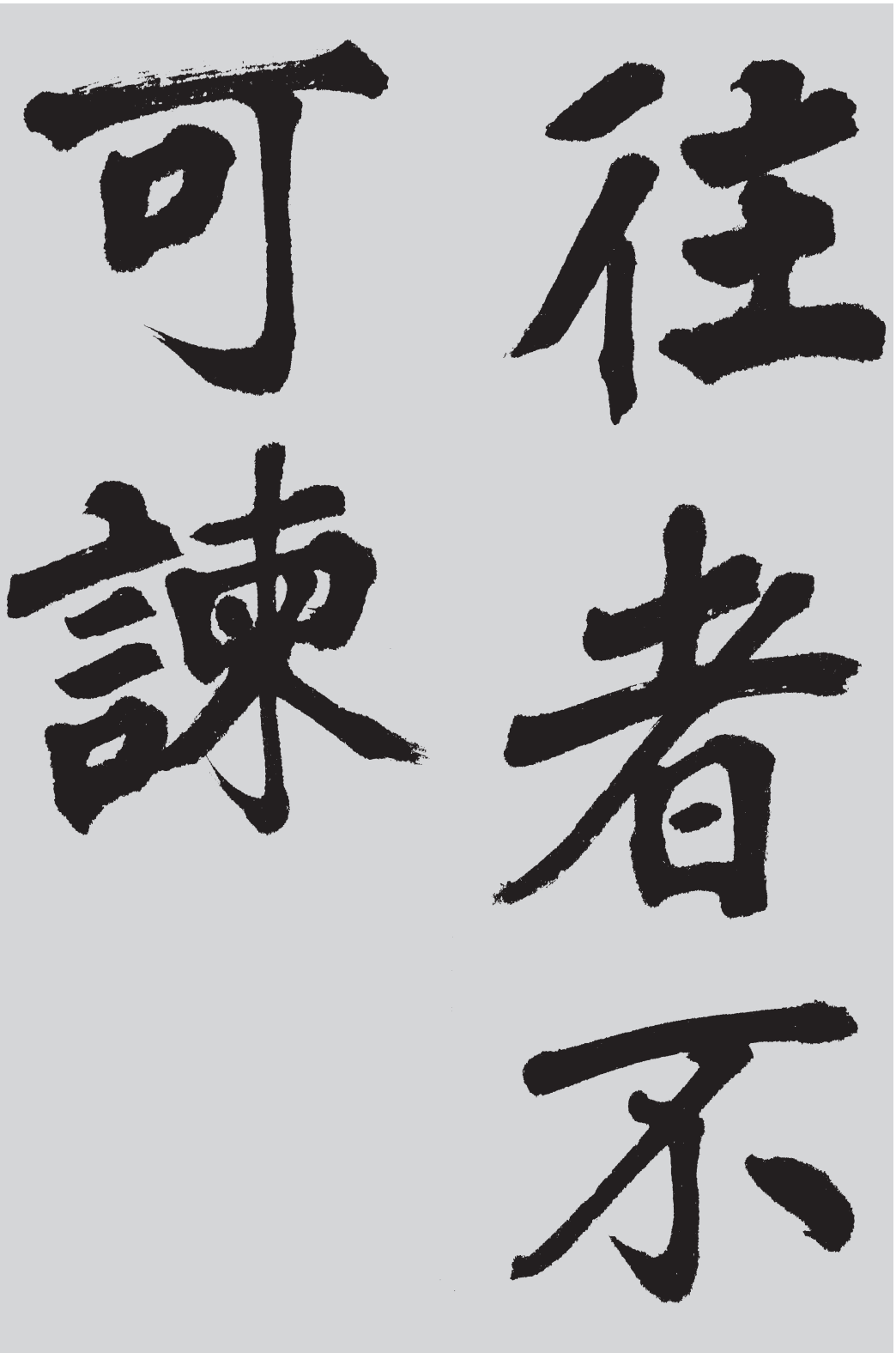
白露の玉もてゆへるませのうちに光さへそふ常夏の花(新古今和歌集)

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

往者おうしゃは諫いさむべからず(論語)

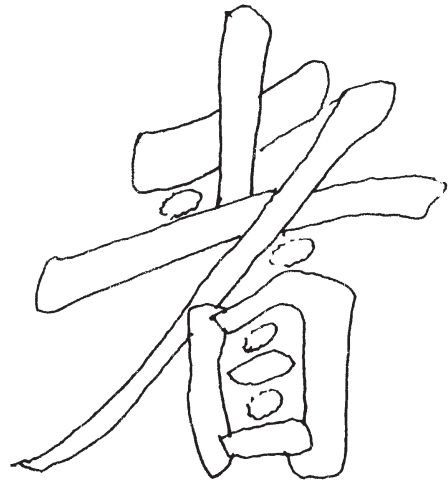
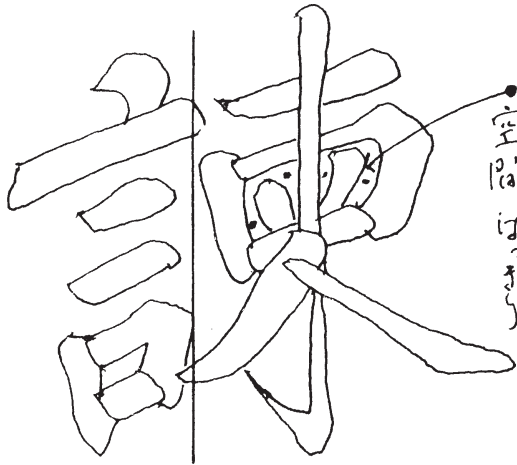
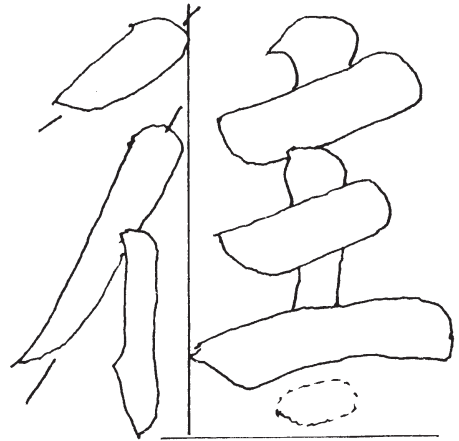
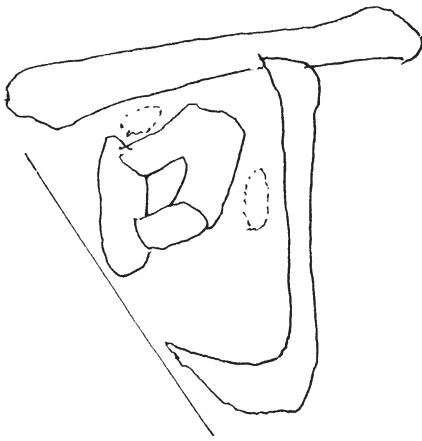


訳：過ぎ去ったことは改めようがない。

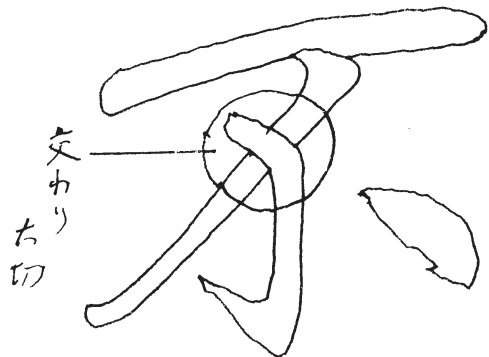
▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

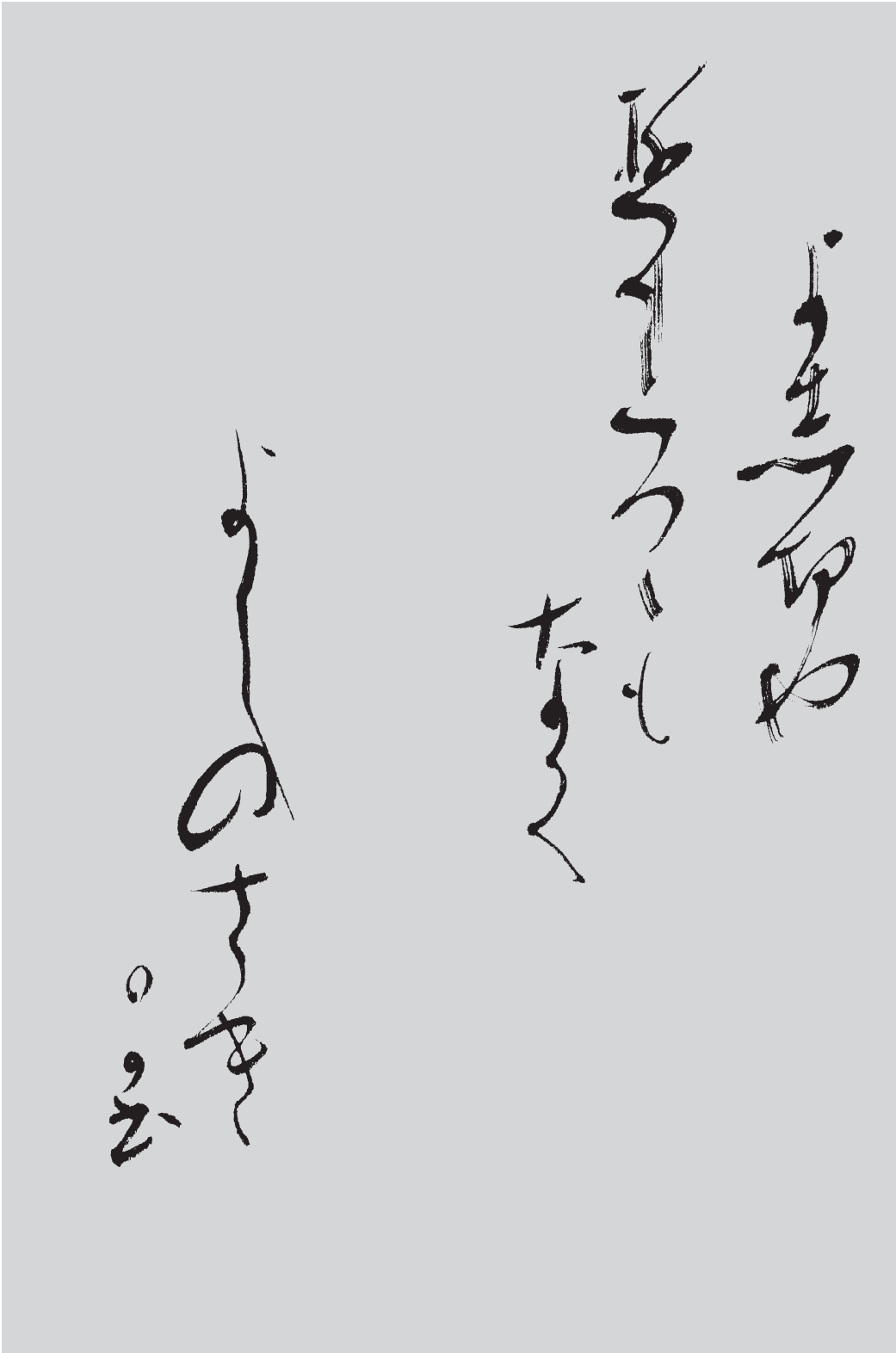


明快性の根幹  
 長横画、長縦画、長斜画  
 が多い。線の伸長は字形  
 の根本。筆を立て、鋒先  
 と利かば暢いやかに運筆  
 (明快性を表出せよ)。



平岡華雪先生書

よしきりやゆれつつもなくよしの先(秋桜子)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① かな部
  - ② 支部名または都道府県名
  - ③ 氏名または雅号
  - ④ 新
- 会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

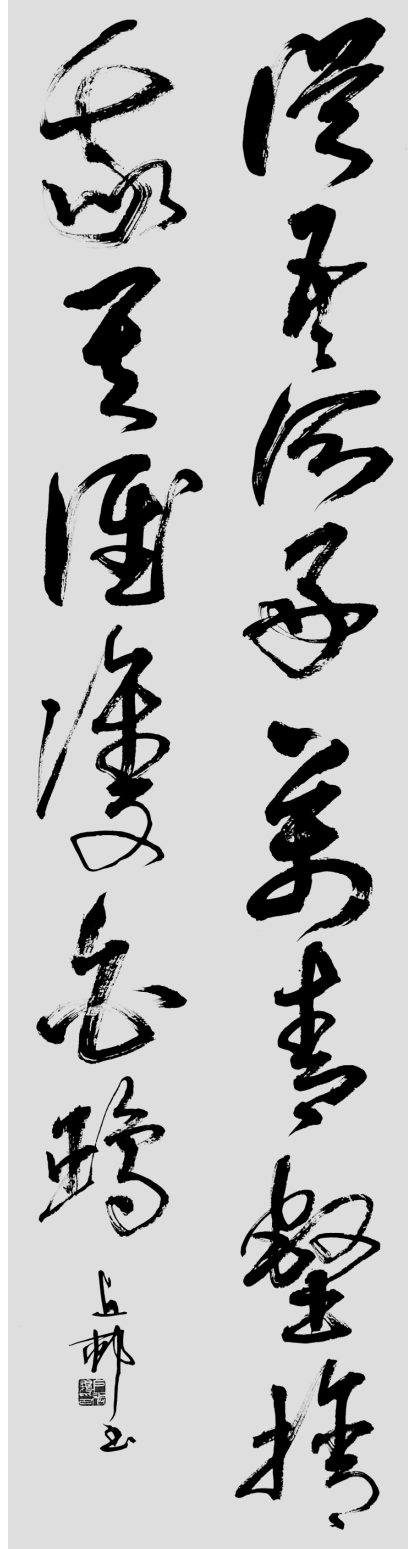
気張らず、自然体で  
 空作りな(志、井、寸、之)の  
 口字、既に何回か精  
 習されてより、ふ欄の口  
 特に取り上げません。各自事としての練習のこと。  
 右群の口字連続、五字連続とリズム的ハ法々を運筆。  
 「なく」サリと空りせて左群へ「の」ヤ、カ感。「マ、」は鎮めて。

カーンヤンク

「空りせて、重くなるのは、  
 下に。」

戸張 丘邨 先生 書

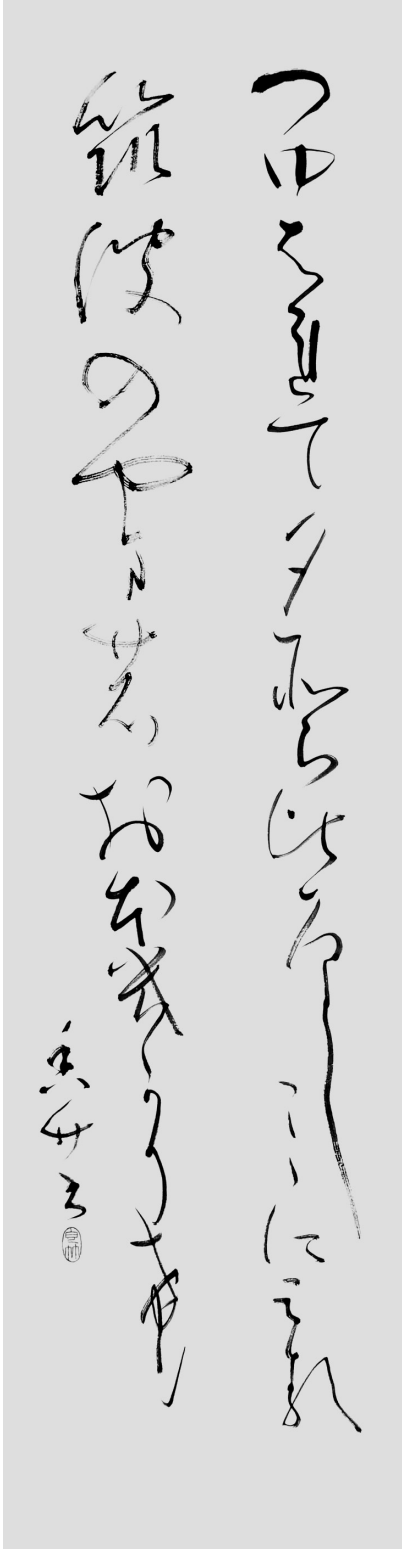
從吾所好萬青壑 捨我其誰雙白鷗 (許月卿)  
 吾が好む所に從う万青壑、我を捨てて其誰ぞ双白鷗。



訳：吾が好む所に從えば深く青い丘や谷であり、吾を棄てては只二羽の白鷗ばかりである。

青柳 香竹 先生 書

梅雨はれて夕空ひろしここに見る筑波の山の大きかりけり (古泉千樞)  
 つゆ者連て夕所ら比ろしこ、に三類筑波のや万農お本幾可り希り



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

北沢博舟先生担当 争坐位文稿 唐 顔真卿 (七〇九—七八六)

※条幅臨書部は出品料無料です。



満而不溢。所以長守富也。

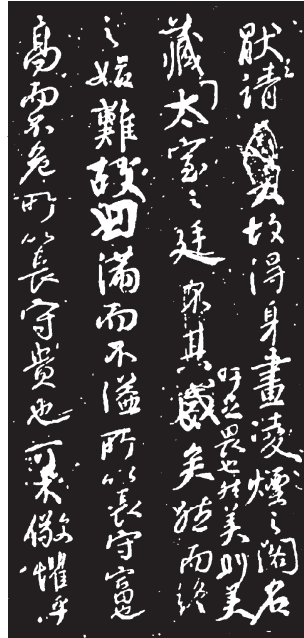
満ちて溢れざるは、長く富を守る所以なり

形式—半切タテ一行書 落款左行へ調和よく「〇〇臨」と書き入れる

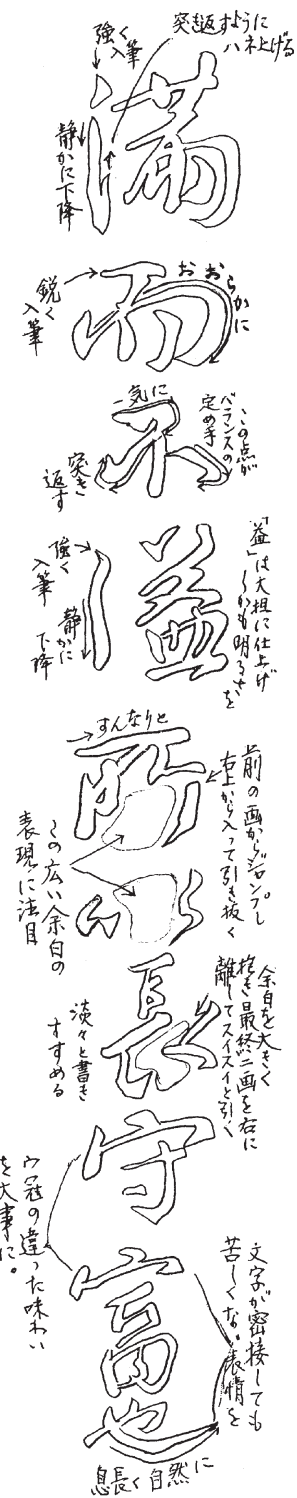
「ご参考まで」

争坐位文稿は、その名の示すとおり草稿であり「卒意の書」です。自己の欲するまま自由に特色を発揮して書かれたもの、つまり書法的技法を心得た中で拘束を離れて、いわば書法を超えて無意識の世界に書した結果、おのずからにじみ出るところに「真の造形の妙」を感じるようになるのだと思います。

顔真卿は書聖王羲之の正統的書法に抵抗した革新的な存在の人というのが定説のようで、それだけに自己表現（人間らしさ）が強い書と言えらるわけで、このことへの視点を忘れてはならないと思っています。書聖王羲之があり、顔真卿が出てこそ、のちの宋代に多種多様な「書」の開花を見ることができたのだと言うことを、しみじみと感じています。



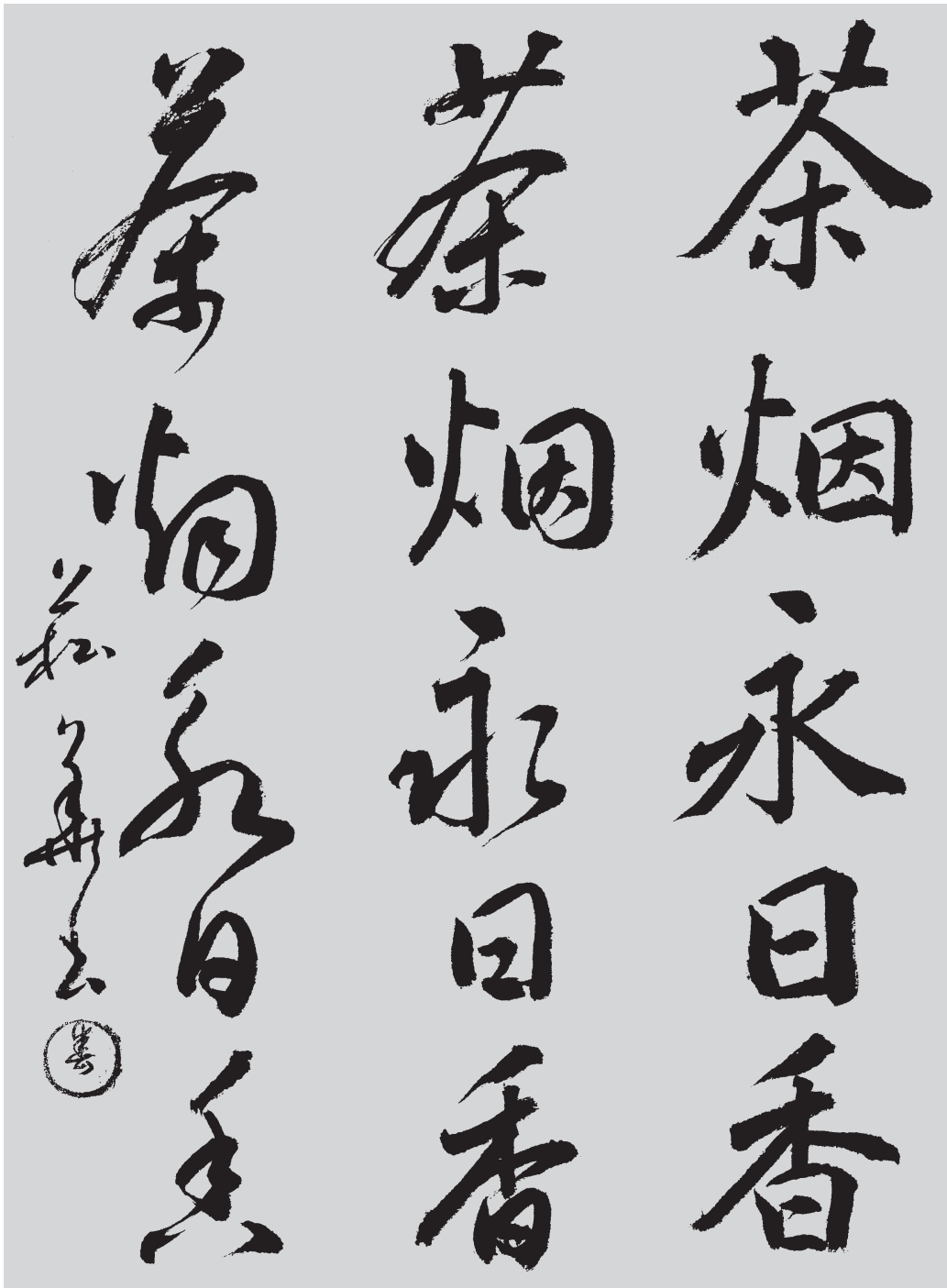
「字は大方」





小暮 菘華 先生 書

茶烟永日香(方回)  
茶烟永日香し。



訳：茶煮る烟が朝より夕までよき香気を立てるのである。


1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

小林光葉先生書

花落曉風靜 鳥啼春日遲 (王都中)  
はらおきょうふうしずか どりなきしゅんじち遅し。  
花落ち曉風静に、鳥啼き春日遅し。

花 落 曉 風 靜 鳥 啼 春 日 遲

光葉書

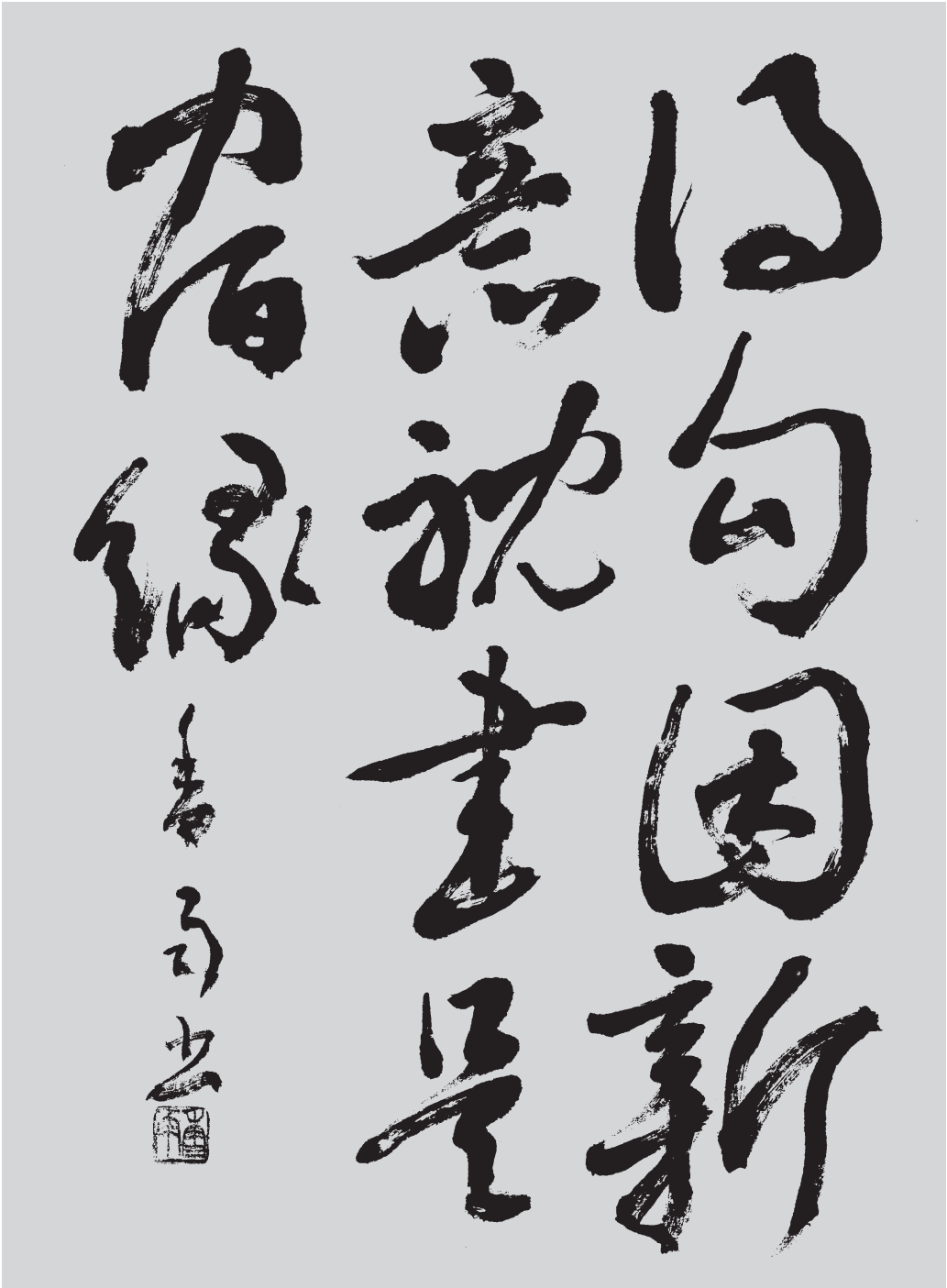


訳：花はちって夜明の風静かに鳥はないて春の日が暮れることが遅い。

◆随意部参考として出品してください。

酒井香雨先生書

得句因新意 耽書是宿縁（許有壬）  
句を得るは新意に因る、書に耽るは是宿縁。

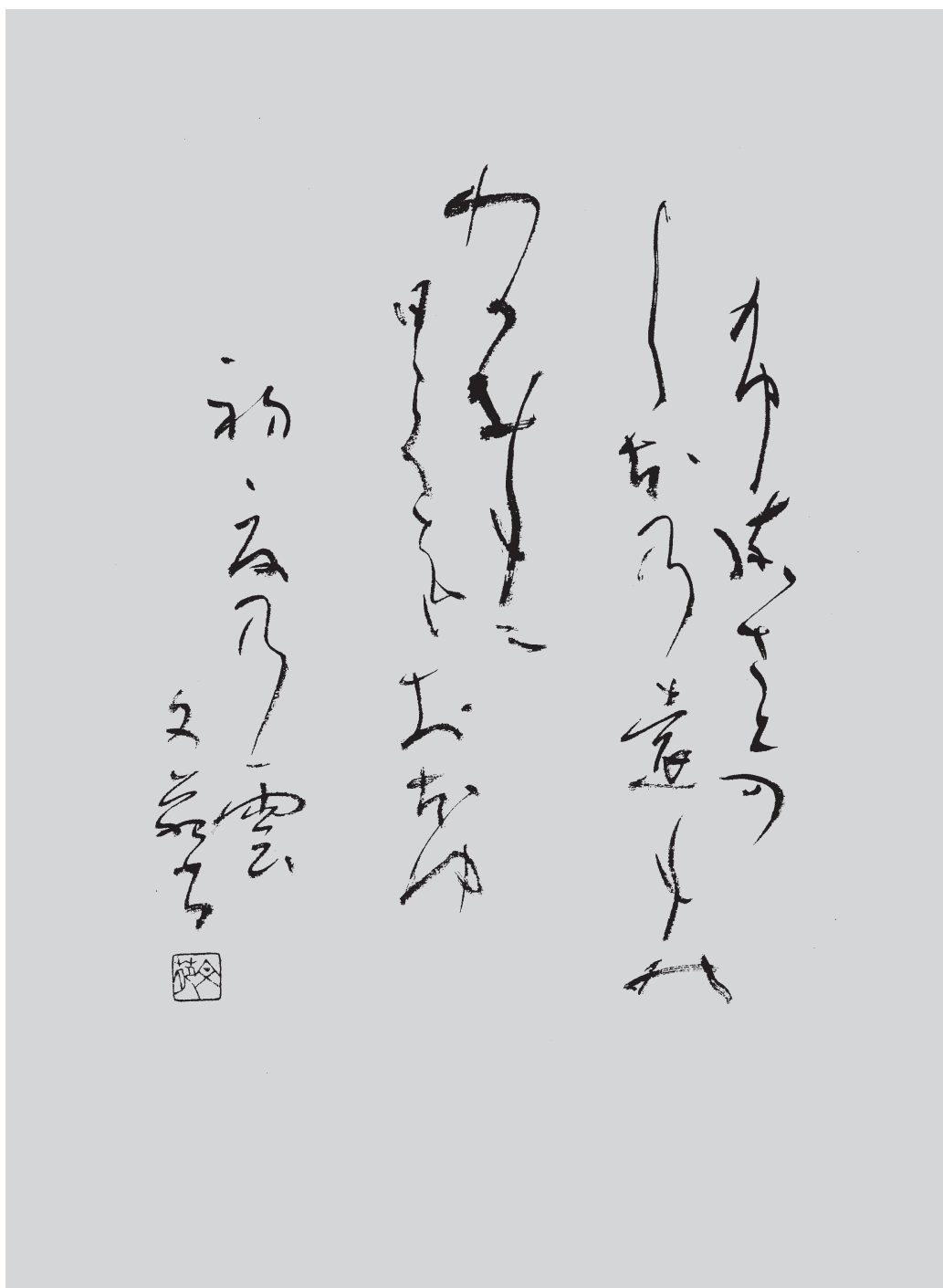


訳：詩句を得るは新しき工夫によらねばならぬ。読書に耽ってやめられないのは前世からの約束である。

添削又は手本希望者は本会規定により、酒井香雨先生（〒144-0043 大田区羽田3-13-10）に直接お申し込みください。

良  
知  
文  
苑  
先  
生  
書

ふるさとの潮の遠音のわが胸にひびくをおぼゆ初夏の雲（与謝野晶子）  
布流さとのし本乃遠年能わ可む年二日、久をお本ゆ初夏乃雲



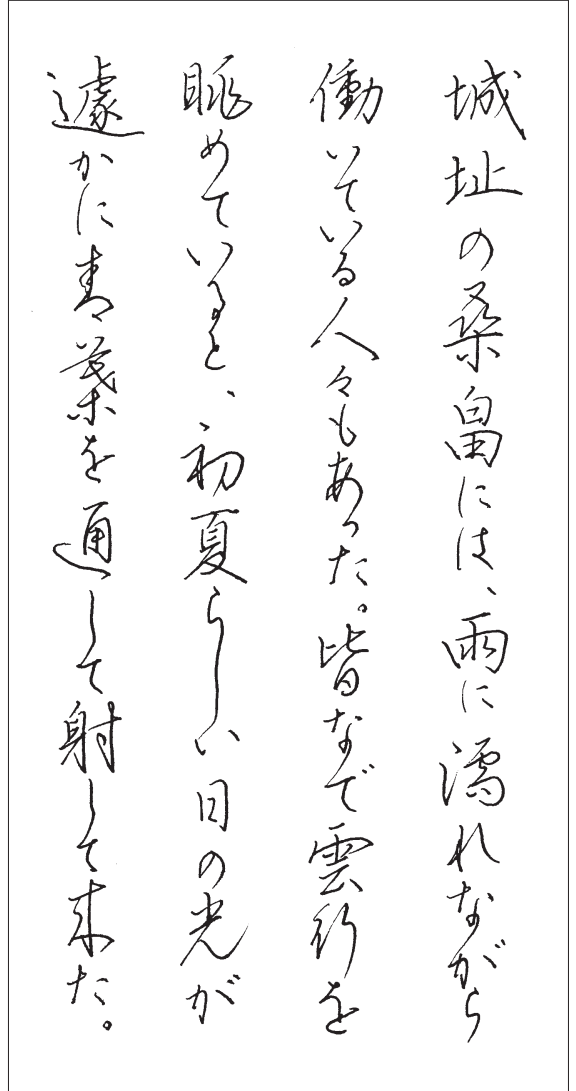
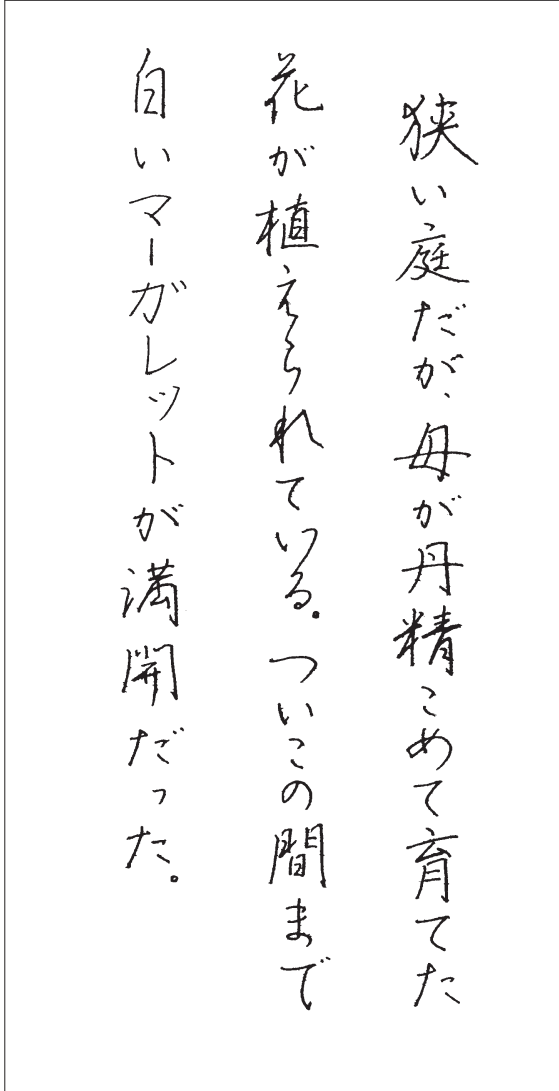
添削又は手本希望者は本会規定により、良知文苑先生（〒420-0886 静岡市葵区大岩1-2-22）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)



課題1 (初段以上)

城址の桑畠には、雨に濡れながら働いている人もあった。皆なで雲行を眺めていると、初夏らしい日の光が遠かに青葉を通して射して来た。「千曲川のスケッチ」 島崎藤村

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 〒二〇七〇〇三三

東大和市向原五ノ一〇九一ノ四

課題2 湯澤春翠先生 〒三七一〇二六

前橋市城東町一―二九一五

課題2 (初段格以下)

狭い庭だが、母が丹精こめて育てた花が植えられている。ついこの間まで白いマーガレットが満開だった。「サマー・パレンティン」唯川 恵